

2022.04.10. 「自分が宗教心に熱いと思っているのか？」

ヤコブの手紙 1 章 26 節 27 節

JD ファラグ牧師

ここにいらっしゃる方で、可能な方は、ご起立をお願いします。ご無理な方は、座ったままで結構です。私が読みますので、目で追ってください。26 節から、御霊によってヤコブが書いています。

ヤコブ 1

26 自分は宗教心にあついと思っても、自分の舌を制御せず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなししいものです。

すみません。笑ってしまって。

27 父である神の御前でよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし（そして）この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。

祈りましょう。よろしければ、ご一緒をお願いします。お～主よ、今日あなたの御言葉で私たちの前にある箇所感謝します。主よ、この特定の聖句へ、聖霊によって私たちの理解の目を開いてください。それにより、あなたがこの箇所で示される事を理解できますように。なぜなら、間違いなく一読しただけでは、すこし.....混乱という言葉は使いたくないのですが、誤解を招きやすいのです。ですから、主よ、私たちが理解できるようしてください。今日の私たちへ、宗教心と信仰に関するこの問題を明確にしてくださいように。そして主よ、私たちに導きください。今、私たちがあなたの御言葉の中にいるように、主よ、あなたの御言葉に私たちの中へ入っていただきたいのです。私たちは御言葉を調べます。しかし、現実には、御言葉の方が私たちを調べるのです。今日、あなたにしていいただきたいことは、聖霊によって、あなただけが出来るようになる通り私たちの心を探り、あなたを知り、従い、愛するために、妨げているものがないかどうか、主よ、見ていただきたいのです。そして主よ、もしあるなら、あなたが御指で指摘し、あなたがいつも、とても優しく、ご忠実であられる通り、主よ、あなたがそれを取り除いてください。なぜなら私たちは、あなたとの関係を遮るものは必要ありません。間違いなく宗教は、そのようにしますが。主よ、今日あなたの御言葉に触れるこの時間を祝福してください。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。今日は、聖霊の助けを借りて、よく聞かれる質問に答えたいと思います。「自分は宗教心に熱いと思っているのか？」間違いなく、皆さん聞かれまたは、こう答えたことがあるはずですが。「私は自分が宗教心に熱い人間と思いません。」もちろんこれは、色々な誤解や勘違いをはらんでいます。そしてその多くは、宗教という単語と関係があります。多くの人は、すぐ言います。宗教とは、人間が神のためにする行為で、クリスチャンは、神が人間のために既にしてくださった事だと。それは、その通りです。しかし！ここに「しかし」があります。聖霊によってヤコブが語るのは、この宗教の問題には、もっと何かがあるように思われます。彼はこう語るからです。「主の御目にかなう純粋な宗教心が、欠点のない宗教心がある。」それを定義します。ですから、私たちは学ぶ必要があります。まず「真の宗教とはどういう意味か？」から取り上げましょう。それに関して 3 つの質問に答えます。まず、これが重要なのですが、新約聖書の原語のギリシャ語では、「宗教」という単語は常に否定的に使われます。聖書を読むと、「宗教」や「宗教的指導者」という単語は、常に否定的な意味合いで使われているのがわかります。この意味合いは、自分を、外見的に信仰深いと思いついでいる人のことです。しかし事実、内面は全く違います。純粋で、穢れのない、欠点のない信仰という本当の意味とは。使徒パ

ウロは、「コロサイ人への手紙2章20節」で語ります。

コロサイ 2

20 もしあなたがたがキリストとともに死んでこの世のもろもろの霊から離れたのなら...

ちなみにこれが重要で、あとで戻ります。

20 もしあなたがたがキリストとともに死んで、この世のもろもろの霊から離れたのなら、どうして、まだこの世に生きているかのように

21 「つかむな、味わうな、さわらな」といったために縛られるのですか。

22 これらはすべて、使ったら消滅するものについての定めで、人間の戒めや教えによるものです。

そして、こんなことも言います。23節、

23 これらの定めは、人間の好き勝手な礼拝、自己卑下、肉体の苦行のゆえに知恵のあることのように見えますが、...

お～あなたは宗教心が熱く見えるけど～、彼はさらに言います。”ひとりよがりの礼拝で、わざとらしい謙遜”

...何の価値もなく、肉を満足させるだけです。

わお～これがヤコブの語ることで使徒パウロが、ここで繰り返しているのです。これが事実です宗教は「行い、行い、行い。」クリスチャンは、「なされた、なされた、なされた。」というのは、宗教って.....たとえば、イスラム教は宗教で、偽宗教です。モハメッドは偽預言者で、アッラーは偽りの神です。ちなみに、アッラーはエホバとは違います。知っておいてください。アッラーは名前であって、称号ではありません。アッラーは偽りの神です。イスラム教は偽りの宗教です。そして、モハメッドは偽預言者です。さて、イスラム教とは何でしょう？ それは、宗教が語る事で「神のためにこうせねばならない。」それが宗教です。その逆が（クリスチャンの）真理です。私が神のためにせねばならないのではなく、神が既に私のためにしてくださったことだからです。神が人となって来られ、人のために死なれたのです。で、宗教的であるというこの話は、「自分を宗教心にあつい人間だと思う。」です。そうですか。それはどういう意味ですか？ すべて、外面的なものです。ついでに言うと、先ほど読んだ通り、ひとりよがりの礼拝です。なぜこれが重要なのかといえば、外見上「私は宗教心にあつい」と言っているだけで、全く何の価値もないからです。使徒パウロと使徒ヤコブが言うように、それは無価値で、取るに足らないものです。例えを言います。例えば、街で看板を見つけて、その看板には「カネオへ方面ではない」と書いてあります。一(笑)一 待って、そんな看板を見たことがあります？ つまり、どれだけ無価値です？ 一体どんな価値があります？ もっといい例えがあれば、後で教えてください。喜んで使わせていただきます。これが私の最高の描写ですよ。つまり、宗教とはそういうものなのです。「これはその道（方面）ではない」というそんな看板みたいなのです。私にはそんなもの何の価値もありません。私には「これが道、これが方向、これが何マイルで到着する。」という看板が必要です。それが私にとって価値あるものです。それが価値があるのです。これで本題に入れます。OK。じゃあ、話しましょう。ありがたいことに、今日の本文は、言わば、何が宗教心ではなく、何が真の宗教心なのか、その看板、つまり方向性を提供します。このような認識のもと、私も含め、すべての人が自問自答すべき3つの質問を投げかけたいと思います。初めに祈ったように、私たち全員が、このことについて、聖霊に本当に心を調べていただきましょう。私が達成したいのは、これらの質問をし、答えることで、究極の問いに答えることです。

「私は自分が心から、、より重要なのは、聖書的に信仰深い人間であると言えるのか？」なぜなら、街行

く一般人に、あなたが福音を伝えると、それが相手への認識になるからです。「お～あなたは信仰深い方ですね。」私たちは、自分の中にある希望について尋ねる人には、答えられるようにせねばなりません。


(I ペテロ 3:15 参照)

「実際、私は敬虔ではありませんよ。事実、、、」これ、聞いたことありますか？ この内容に入る前に、これを聞いたことがあります？おそらく、もしかしたら参考にしたのではないのでしょうか。「私は組織的な宗教を信じません。」お～主を褒めたたえます。それは良いことですよね。組織的な宗教。宗教、宗教です。では最初の質問、これは厄介です。26 節です。「私はおしゃべりなのか？」ウ～～。ヤコブは、3 章と 4 章に入ると、舌の作用について詳しく取り組みます。実は、3 章のほぼ全体が、舌と呼ぶ口の中の小さな器官について書かれていて、舌は神を賛美し、人を呪うために使われます。それで...彼は、まずここでそれを持ち出します。そして問題は「なぜか」です。なぜヤコブは、1 章で私たちに厳重に舌を制御するよう戒めたのでしょうか。舌を制するという表現もあります。3 章では、聖霊によってかなりの時間を費やし、4 章でも、さらに舌について言及します。では、なぜここで、なぜ今なのか？ 皆さん気づいたかどうかわかりませんが、見逃さないよう指摘しておきます。先週もお話ししました。再度、ヤコブは、「自己欺瞞」を持ち出します。前の節でそう話したのに、再び述べます。これは深刻な問題だという印象を受けませんか？ 私たち誰もが持つ自分を欺く性質です。その意味を本当に理解し、完全に把握しているのでしょうか？ 私たちは、容易く自分自身に嘘をつき、自分の嘘を信じ、自分を欺いてしまうのです。このことは、これから話を進めていくのに、私たちの理解を深める上で非常に重要です。再度、なぜヤコブは「舌を制す」という言葉を使ったのでしょうか。この文脈では、一見すると文脈から外れているように見えますが、それは彼が今言ったこと、宗教と宗教心に関することに全く一致しないように思えます。先週、少し時間をかけて、このことをもう少し深く掘り下げました。私が発見したことを皆さんに共有したいと思います。それが本当に理にかなっていて、「神の御言葉を実行する者」という文脈に合致するからです。舌については 3 章でも述べますが、今、ヤコブは「神の御言葉を実行する者」という文脈で話しています。そこで私は、古い英語の注釈書に目を通しました。その古い英語の注釈書からいくつか抜粋し、纏めたものをご紹介します。この注釈者は、この舌を制し、舌を支配する事に関して問題の核心を突いています。「神は私たちに垣根を、舌を黙らせるための白い垣根をくださいました。」—(笑)— この描写なしに、今日の残りを過ごせたかもしれませんけども、この注釈者の説明を聞いてください。「使徒は、御言葉を実行する者への祝福を示した後、次に、御言葉を実行せず、聞くだけの者を示し、その例として、“舌の邪悪さ”を挙げる。質問...この言葉についてさらにコメントする前に、なぜヤコブがこの一点に重きを置くのか考えてみたいと思う。それ自体はとても些細なことで、文脈との関連がほとんどないように思われる。...回答は、これは通常、偽善者の罪である。偽善者は、あらゆる人の中で、最も舌を制することができない。彼らは、自分自身をあまりにも高く評価する。自己愛は、偽善の根源である。自分を探ったり、悪を疑ったりしない。自分には甘い、他人には厳しい。信心深そうな人ほど、他人の批判や愚痴を多く言う。自分の霊の罪の意識を自覚しているので、他人を疑う傾向が最も強い。批判や不平は悪魔の策略であり、自分の罪に対する憤りの言い訳にする。慈悲深い心は、自分自身を最もよく省みる。舌と心の間には密接な関わりがある。使徒が言うところの、それが彼らの宗教が無価値である理由だ。彼らは舌をしっかりと制御することができないのだ。セネカは言う。“言葉は心の表れである”彼よりも偉大な人（救い主のことです）は仰ったのだ。

「心に満ちていることを口が話すのです。」(マタイ 12:34)」

ご辛抱ください。ヤコブは、御霊によって、「彼らは自身を宗教心に熱いと思っている」と具体的に書いているのに注目ください。お～自己規定です。パウロが「コロサイ人への手紙」で書いているように、ひとりよがりの信仰です。つまり、それが彼らの自分たちへの見方であり、想像なのです。それが当然ではないでしょうか。自分を信仰的だと考えている人には。失礼、要点を伝えようとしてるんです。自分を信仰深いと思っている人が、あなたに対して見下したり批判したりするのは、当然ではないでしょうか？なぜなら、結局のところ、自分を敬虔だと考えるからこそ、あなたより優れた存在だと思っている。それは外面ばかりで、大変興味深いのが心が自分のことで満載だからそれが出てくるのです。全部高ぶりです。それが自分を必要以上に高く評価している人で、彼らは自分のことで満載で、自分は信仰深く、霊的だと考えているのです。その面目を保ち維持するために、彼らは自分を持ち上げ、自分を維持するため、あなたを中傷しなければならないのです。何が悲しいかわかりますか？これは多くの結婚生活に言えることで、夫は、臆病な不安と肉の欲で、妻を責めます。彼の妻に対する話し方。どれだけ批判的なのでしょう。この批判的霊を持っている人がいるので、例に挙げて説明します。ヤコブが言ったように、批判的な霊は、自分が優れていると考え、自分が宗教心に熱いと考えの人と同義であることがほとんどでしょう。彼らは自分自身を強化するためそうするのです。そして出てくるものにより、あなたはそれを知っています。過去に聞いた良い例を思い出しました。聖霊からだと思います。

「自分の中にあるものがぶつかる時に表に出てくる。」こうです。あなたはバケツを持ち歩いています。いいですか？バケツの中はあなたのことでいっぱいです。とにかく、、、聞いてくださいね。誰かがぶつかってきたり、叩いたり、気分を害したり、いろいろあり、あなたの中から出てくるものは、すでに、あなたの中にあるものですよね。もし、自分のことでいっぱいなら、何が出てきますか？あぁ～！心に満ちているものが、口から出るからです。ここでヤコブが言っているのは、それなのです。では、質問に戻りましょう。私もそのうちの一人ですが、ただ...3章に入ると、誹謗中傷が多くなります。これは、結局のところ、自分が信仰心に熱いと思っているから批判するのだと思うのです。それで、中傷や批判が多くなります。これはどうですか？もう一度、聖霊に自分の心を探ってもらいましょう。不満を言うのは、どうでしょう。不満が語ることは....（高ぶりから）「それは私には適さない。要するに私自身がこれより上だと思っているので、私には不似合いさ。」そこから不満が生まれます。まさにここから産み出されます。批判や不満を言うとき、あなたは何と言いますか？つまり、何も言わなくても、もう、それが口から出てくるんです。「おお、すげえ全部自分のことなんですね？」子どもたちが成長したとき、この歌を教えました。

♪～「世界は、自分中心に回ってはいない、そして人生は、不公平だ。ボーン、ボーン、ボーン。」
さあ、皆さんと一緒に。世界は、あなた中心には回っていません！人生は不公平なのです。乗り越えてください！妻がいつも言います。「橋を架けて乗り越えろ。」そう、ですから、ね。すべては、高ぶり/プライドです。それで、どうするのか？お～始めるのです。心にある物が出てくるのですから。心に満ちると、口から出ます。だから話し始めると止まりません。そして、垣根が大きく開かれ、その舌は、ただひたすら動き出します。喋りだして、收拾がつかなくなり、批判や不満を言い出します。もう一步踏み込んで、次に進みます。自分自身に罪を示されたので。もちろん、私は牧師ですから、不満とは言いません。「嘆く」と言います。その方がずっと霊的に聞こえます。物事が思い通りにいかないと、結局は、すべてが自分を中心に回ると思うから、不満や批判、非難を始めるのですよ。そこで、次に進む前にもう一步踏み込んで話したいのは、これについては、最後にお話ししますが、その批判的な霊や不平不満、非難が、

神に向かうならどうでしょうか。私たちが不満やぼやきを言うのが。ここでヤコブが言っているのがそれです。聖なる恐れ、主に対する聖なる畏れがあるべきです。維持することになると…ところで、私たちの証や証人はどうでしょう？ 私たちが世に向かって話しているとき、世と同じように話しているのは、すべて私たちが抑制してない舌のせいです。では、2つ目の質問、27節の前半です。「私は思いやりのない人間なのか？」ヤコブが御霊によって、神の御目にかなう純粋な宗教心、神に受け入れられる信仰心というものがあることを強調したのは、非常に興味深いことだと思います。困っている人を思いやる信仰心で、具体的に、無力な人、特に孤児ややもめのような、苦境に立たされている人を助けることです。そして、これも再び「なぜ？」と自問自答せねばならない箇所1つです。なぜそれは限定された人なのでしょう？ なぜ、孤児ややもめに特定なのでしょう？ まず、その当時、その文化で、孤児ややもめであることは死刑宣告のようでした。そして、その時代、その文化で、孤児ややもめを助けることは、事実上、彼らの命を救うことだったのです。それが、純粋な信仰心です。しかし、私たちにはまだこの質問があります。なぜ、それが主の御目に適うのでしょうか？ なぜ神は、それを純粋な信仰と見なされるのか？ それが純粋な宗教心で、穢れのない信仰心、と訳されているものもありますね。答えは、考えてみてください。孤児ややもめは、あなたに、何も返すことが出来ないからです。ああ。。こんな世俗的な表現を聞いたことがあるでしょう。ちょっと先走りますが、これは次に続き、残りの時間で学びます。残りの時間を費やすことになります。しかし世がどう言うか知っていますよね？「君が私の背中を搔いてくれるなら、私は君の背中を搔いてあげる。」お、そういうことね。私があなただの背中を搔けなかったらどうしますか？「OK。じゃあ、取引しない。取引はナシ！」言い換えれば、私は見返りがあると分かる人だけ助けるつもりです。私は思いやりを持つだけです…というか…主が私の心を探って下さるようお願いしています。あなたにご理解いただきたいのは、毎週の私の特権であるように、日曜日の朝にここに立つ前私はこれを所有しなければなりません。自分が持っていないものを伝えることはできません。数週間前に話したように、私はメッセージをすることはできますが、メッセージが私を掴んでいるのか？ 私は時々、他人に対してあまりにも思いやりがないことを告白しなければなりません。それはなぜか？なぜなら、自我であり、私であり、すべてを自分中心に回すからです。「私はどうなの？」と。不敬虔な三位一体：「私を」「私自身」「私は」私たちは本当に思いやりがないですね。最後はいつだったのか、私は自分にこう問いかけました。決して見返りは来ないとわかっている人のために、何かをしたのはいつだったのか？ それは何で、いつだったのか。まあ、それが何であれ、いつであれ、皆さん知っていますか？ それが主の御目には、「おお〜〜」と映るのです。「それが、わたしがここで語ることです。では、話しましょうか。わたしの目には、それが純粋で、穢れないものと映ります。あなたは宗教心に熱くなりたいですか？ わたしはそういう者を受け入れます。信仰の旗印を掲げたいですか？ それが純粋なら、わたしは受け入れます。」下心がない事。自分ではどうしようもない人を助けるのは、純粋な動機です。また、このことについて最後にもう1つ。イエスは福音書でこのことを語っておられます。そういう風に誰かのために何かをすると、それが主のためにしていることだと、知っていますか？ 親になるという文脈で考えてみてください。誰かが自分の子どものため何かしてくれる。ふ〜逆にしてみてください。皆さん、そんな顔してるんだから。誰かがあなたの子どものために何かしたらどうですか？ ある時、娘が幼い頃、学校から帰ってきて、泣いていたのが忘れられません。私はこうです。「どうしたの？」娘は、「うん。男の子に意地悪されたの。」私はこうなります。「そいつを見つけてやる！どこに住んでるんだ？」私の娘ですよ！ 私の娘なのです。あなたはそうしない。それはあなたが私にし

たようなものです。では、ひっくり返します。そうやって誰かのために何かをすると、まるで主のためにする事になります。「イエス様、私たちはいつあなたに一杯の水を差し上げましたか？」

「イエス様、いつあなたが空腹で、私たちが与えましたか？」(マタイ 25:37 参照)

いつなのか、教えましょう。

「これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」

(マタイ 25:40)

イエスは、孤児ややもめ、父親のいない者の神です。神は孤児に目をかけられます。そして、何が本当に興味深いかというと、福音書の中で、救い主はいつも最も小さい者、最後の者に惹かれておられることがわかります。主は彼らに惹かれておられます。主にとって穢らわしいのは、宗教指導者たち、“宗教指導者たち”でした。救い主の口から出た最も厳しい言葉は、当時の宗教指導者たちに向けられたものです。最も小さく、最後の、無力な者以外です。私は若い信者の頃、まだ聖書を最後まで読んでいなくて、白紙の状態、皆さんが聖書に書かれているとたぶん思う同じことを思い込んでいました。あの一節『清潔は信心深さに次ぐ美德』とありますよね。そう、聖書に書いてあることですよ。一いいえ、違います。

OK。ではこれはどうです？「天(神)は自らを助くる者を助く」はい、聖書にはありません。皆さん知ってましたよね？ OK。逆が真理です。神は、自分ではどうしようもない者を助けられるのです。主は、無力な者のための神なのです。福音書のイエスは、道から離れようとしておられ、文字通り群衆が、主に近づこうと、主に触れようとひしめき合っています。長血を患っているあの女性は、主の衣に触れるため、這うようにして主に近づきます。(ルカ 8:43/44 参照)

これはどんな信仰でしょうか？ そして、イエスはすべてを止められます。

「待ちなさい。誰がわたしの衣に触れたのですか？」(ルカ 8:46 参照)

おお、主は知っておられました。主はそれに対して、注意を引きたいと考えておられました。想像できますか？ 今、彼女に注目が集まっています。彼女はこう言います。

「私に十分な信仰があるなら、あなたのところに行き、あなたの衣に触れるだけで、癒されると思ったのです。」(ルカ 8:47)

そして彼女は癒されました。イエスはそのことに感動されました。そして、主はいつもそのことに注意を向けておられます。この女性は、あらゆる医者に診てもらっていたでしょう。おそらく長年にわたって誰一人、彼女を助けられなかったのです。彼らは彼女に請求するだけでした。失礼。(笑) 彼女に請求書を送れ。(笑) つまり、失礼ですけども…しかし、全く無力で、全く絶望的です。そして、主は何をされたのでしょうか？ お～、瞬時に彼女は癒されました。主は、力がご自分から出て行ったことを知り、彼女は瞬時に癒されたのです。(ルカ 8:46 参照)

そういう力強い記述です。彼女は12年間、長血を患っていたのです。そして同時に12歳の少女がいました。お～力強い。とても力強いです。私は何が言いたいのか？ この人たちは無力な人々なのです。これらは、倒れ、出された者、最も小さい者、最後の者、足の不自由な者、目の見えない者、足の萎えた者です。イエスが説かれた例えを覚えていますか？ 結婚式の盛大な祝宴。類型において非常に預言的です。結婚式の大宴会があり、主はしもべを送り出されます。『彼らを招待したいのです。』しもべが出て行って招待しても、返事がありません。(マタイ 22:3 参照)

「マジで？ 分かった。彼らは忘れて。あなたがたは町に出て、足の不自由な者、目の見えない者、足の萎えた者、最も小さい者、最後の者のところに行きなさい。彼らを招待してほしいのです。」(マタイ 22:

8-10 参照)

彼らは返事をしました。預言的な繋がりがあるのがわかりますか？ いつも最も小さき、最後の者です。なぜでしょう？ そうすれば、神だけがすべてのご栄光を手にもされるからです。神だけが栄光を手にもされるのです。

肉なる者がだれも神の御前で誇ることはないようにするためです。(I コリント 1:29)

では最後に、この3つ目に、十分な時間を残しておきたかったのです。そして再度、厄介です。どれも厄介ですが、27 節の後半です。質問は単純に、「私は世俗的なのか？」今すぐ祈りで締めくくりたいですか？ 私はそうしたいです。わかりました。まあ、そう慌てずに。これは、私たちが世にいながら、世のものではないということを示す、いくつかの理由で非常に興味深いものです。そして、ヤコブが語るのが「この世の汚れに染まらないよう自分を守ること」どうすればいいのでしょうか？ 私は世にいますが、世に染まらせないでください。あなたは世にいますが、世のものではありません。しかし、そこが問題ですよね。ここで一度、不満やぼやきを言う問題に戻ってみましょう。やりたくないですけど、ここにあるので、しなくてははいけません。OK。

神は、イスラエル人をエジプトから脱出させられます。エジプトは世の型ですよ。今、主はエジプトをイスラエル人から取り除かなければならなりません。何が起こったか知ってますね？ このような、いわゆる「入り混じった群衆(異国人)」がいました。(出エジプト 12:38)

彼らは何者なのか？ ああ、彼らはイスラエル人と一緒にエジプトを出たエジプト人です。「出エジプト記」には、荒野で水がなく、彼らが不満を言う場面がたくさん出てきます。つまりあなたがたのその不満は神に対するものですね？

「エジプトに十分墓がないので、荒野で死なせるために、わたしたちを携え出したのですか。」(出エジプト 14:11)

そして、神がこう仰る時、どうです？ 「わかりました。そうですか。」へビがやってきて、彼らを殺し始めます。それを抑止力と呼びます。旧約聖書には、、、私は気づきますが、「わたしは今、あなたがたをエジプトから救い出したばかりです。まだ戦いは半分もいっていないのに、本当の戦いは、あなたがたからエジプトを取り除き、あなたがたから世を取り除くことなのです。つまり、あなたがたは自分の中にエジプト取り込み過ぎたから。そして、入り混じった群衆はきっと何の役にも立たないでしょう。」民がマナを食べてうんざりした時の記述はどうですか。毎日、マナ、マナ、マナ。マナで作れるのは限られています。マナバーガー、マナコッティー。それだけです。「肉が食べたい！」そして民は、不平不満を言い、ぼやきます。ふ～マナはキリストの型ですよ。この学びにおられた方はご存知でしょう。魅力的な類型論です。マナはイエスです。民はどうやら変化がほしかったようです。マナは、もう十分ではありませんでした。彼らはマナに飽きて、マナにうんざりしたのです。「肉が欲しい！」お～それがあなたがたの最初の間違いでした。「肉が食べたい！！」皆さん、聞こえますか？「肉が欲しい！！」まるで「肉を食わせろ！」の看板を掲げて街を歩いているようです。「OK。肉が食べたいのですか？」そこで神は仰います。「肉を与えましょう。よろしい。」主はウズラを送られ、彼らは集めました。測量は「オメル」で、聖書で初めて野球についての言及です。(オメル”homers”=ホームラン)しかし民は集め…(笑)このすべてのウズラを、、、とても生々しいのが、彼らは肉欲に溺れ、肉を飲み込む前に死んだと言われています。喉に詰まらせたのです。神は彼らをそれに委ねられました。「何が言いたいのですか？牧師さん、ポイントがあるのですか？」はい、あります。ポイントがあります。それが世です。それが世なのです。私たち

は世にいますが、世が私たちの中にあるのですか？ 神は、そのエジプト（世）を私たちから取り除かねばならないのです。なぜなら私たちの心の底には、まだ肉を食べたいという欲求が深く根付いているからです。そして興味深いのは、民はエジプトでの選択的記憶があります。「長葱やタマネギ～、バイキング～。」「どこにいたの？ 私たちはエジプトで同じ束縛と奴隷の中にいたでしょ。私はバイキングなんて食べたことない！」—(笑)— ちょっとくだらないですけど、要点はわかりますね？ 彼らは、世が提供するものを求めました。神はご忠実にも、、、毎回、欠かさず、毎朝、マナを下さったのです。民に必要なものはすべて、神が与えてくださいました。しかし、彼らの世俗的な欲望には十分ではなかったのです。食べ物には、味覚や食欲を増進させるものがありますよね。地中海料理について考えます。みんながみんな、そういう料理が好きなのではありません。本当に味を覚えねばなりません。私は、その味を覚える事に勝利しました。でも、それって嗜好品です。何かを食べれば食べるほど、その食べたものが欲しくなるのは、興味深くないですか？ たとえば、砂糖。砂糖やデンプン、さらには炭水化物など、食べれば食べるほど、もっと欲しくなりますか？ 霊的な意味で何かがあるのでしょうか。私たちは、世の物に対して食欲や渴望を持ち、その結果、世に染まっているのです。ヤコブが言っているのは、

「よろしい。あなたは自分自身を宗教心にあついと考へている。主の御目に、神に受け入れられる、純粋で汚れのない宗教心とは何かを教えましよう。それはやもめや孤児の苦勞を思いやること。そして、続きがあります。世に染まらず、汚されず、穢れなく、あり続ける事。」「ええでも、私はこの世にいるのです。」

ええ、でも世に染まる必要はありません。世や世の欲に流されない事。世俗的な欲には、聞いてください。誤解されるので、言い方に気を付けます。私たちは世にいます。世に物を持つのは、悪いことではありません。しかし問題は、そのような物があなたを所有し、世の欲があなたを所有する時です。世があなたを所有する時です。心の奥底で世を渴望し、あなたは世に染まっていきます。では、纏めてから締めくくります。「私はおしゃべりなのか？」私は、この舌に、文句を言い、批判し、ぼやき、非難させ続けるのか。

「私は思いやりがあるのか？」私は困っている人、悩んでいる人を思いやれるのか？ 特に現代、このような世の中ですから。主の御目に清く映るのを知っているのは、私が思いやって助ける相手から、見返りはないからです。そして最後に、「私は、この世にしながら、この世に汚されていない状態を維持したのか？ 私のクリスチャン生活の中に、世俗的なものが入り込み、住み着いたものはあるか？ 私は、世のものに対する味、肉の欲を身につけてしまったのか？」主は、私たちを世にある罪の奴隷、束縛から救い出してくださいました。では、主に、あなたから世を取り除いていただきましよう。なぜなら、もう間もなくあなたをこの世から連れ出すためやって来られるのですから。私は携挙が起こったとき、何人かが「ねえ、これ持っていったいい？」となるのを想像します。あの話を思い出します。最後に、これで締めくくります。ある男が金塊を持って天国に現れました。主は彼を見て仰いました。「君、なんだ、それは？」「お～、これは金塊です。」そして主は彼を見て仰います。「なぜここにアスファルトを持ち込むのだ？ ここでそれは道に使っているんだよ。」—(笑)— オーケー

カポノ、あがって来て、私を窮地からまた助けてください。お立ちください。祈りで締めくくります。それが世なんですよ！！ でしょう？ 昔の賛美歌を思い出します。「世を後ろに、十字架を前に」「あなたは世を手にはすればいい。私にはイエスを下さい。」

ああ、主よ、あなたに感謝します。厳しい学びですが、良い学びです。私たちに必要です。私たちはそれを聞きたくないかもしれませんが、主よ、私たちが聞く必要があります。(ため息) 主よ、私たちはこれら全てになりたいです。舌を制し、この世の無力な人々、孤児、やもめを思いやりたいと思います。

私たちは、この世に染まりたくありません。主よ、あなたに感謝します。私たちが聖霊の力によって、できることを感謝します。自分の力、自分のエネルギーや意志、自分の強い意志の力では決してできません。あなたが私たちを力づけて下さり、聖霊の力によってでなければ、決してできないのです。でも、これがあなたの御目に映りたい私たちの姿です。ですから主よ、あなたの聖なる御言葉を実践するための聖霊のご方法に感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7